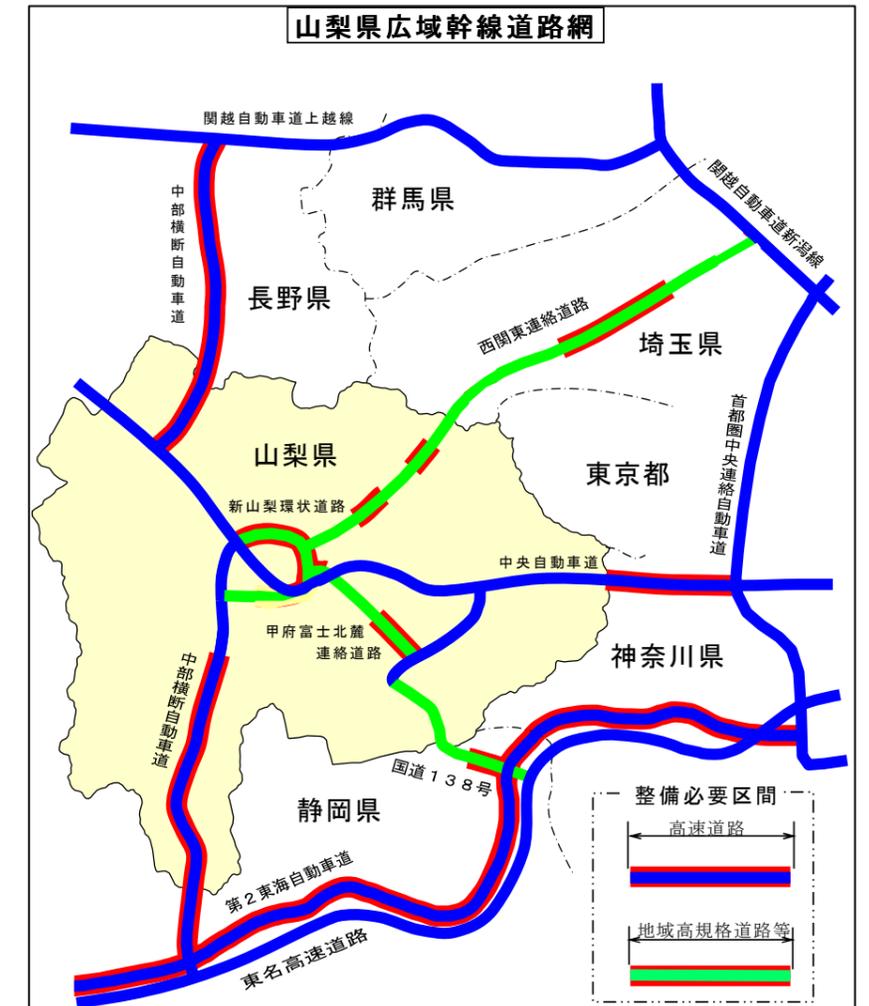
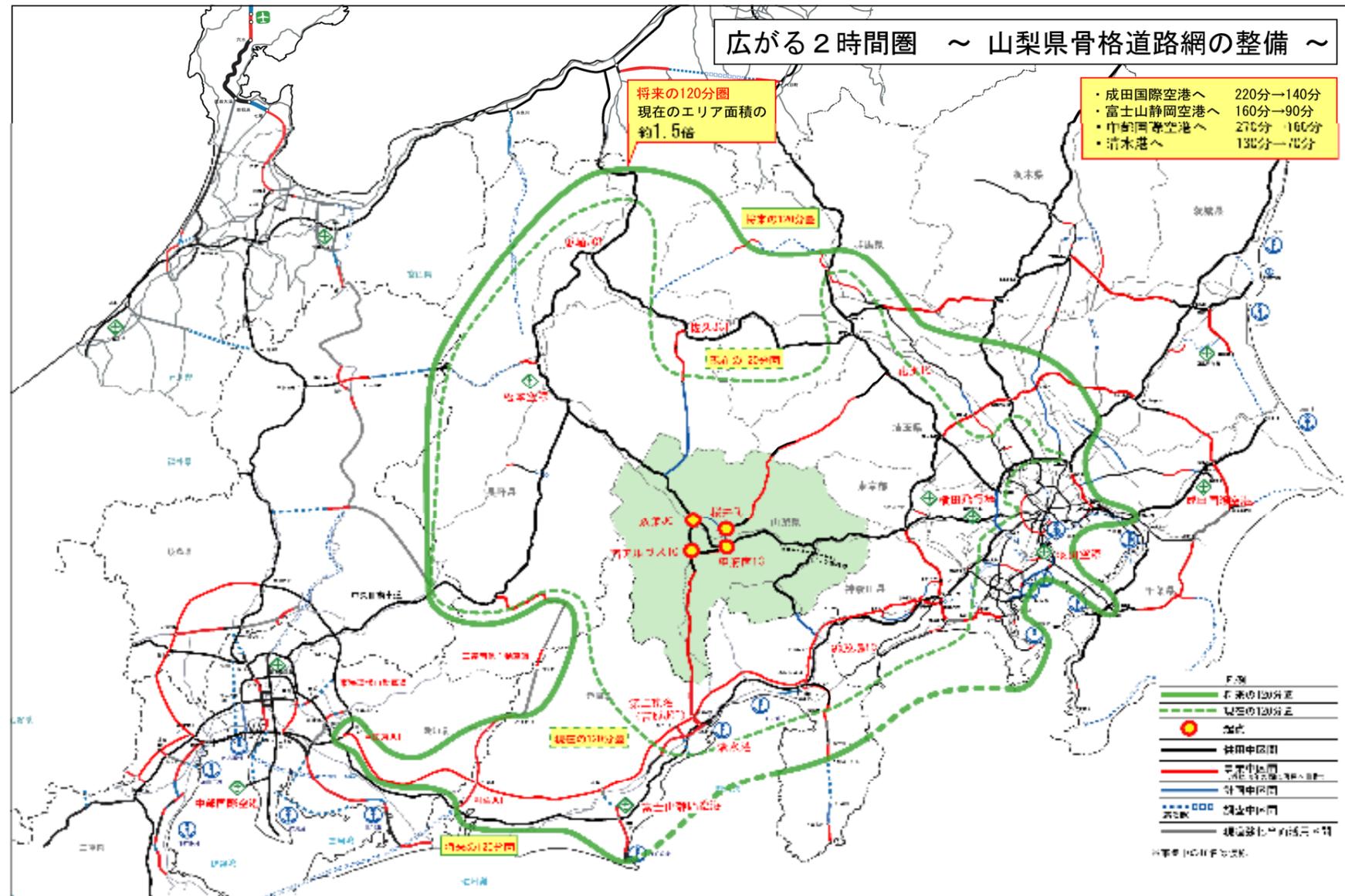
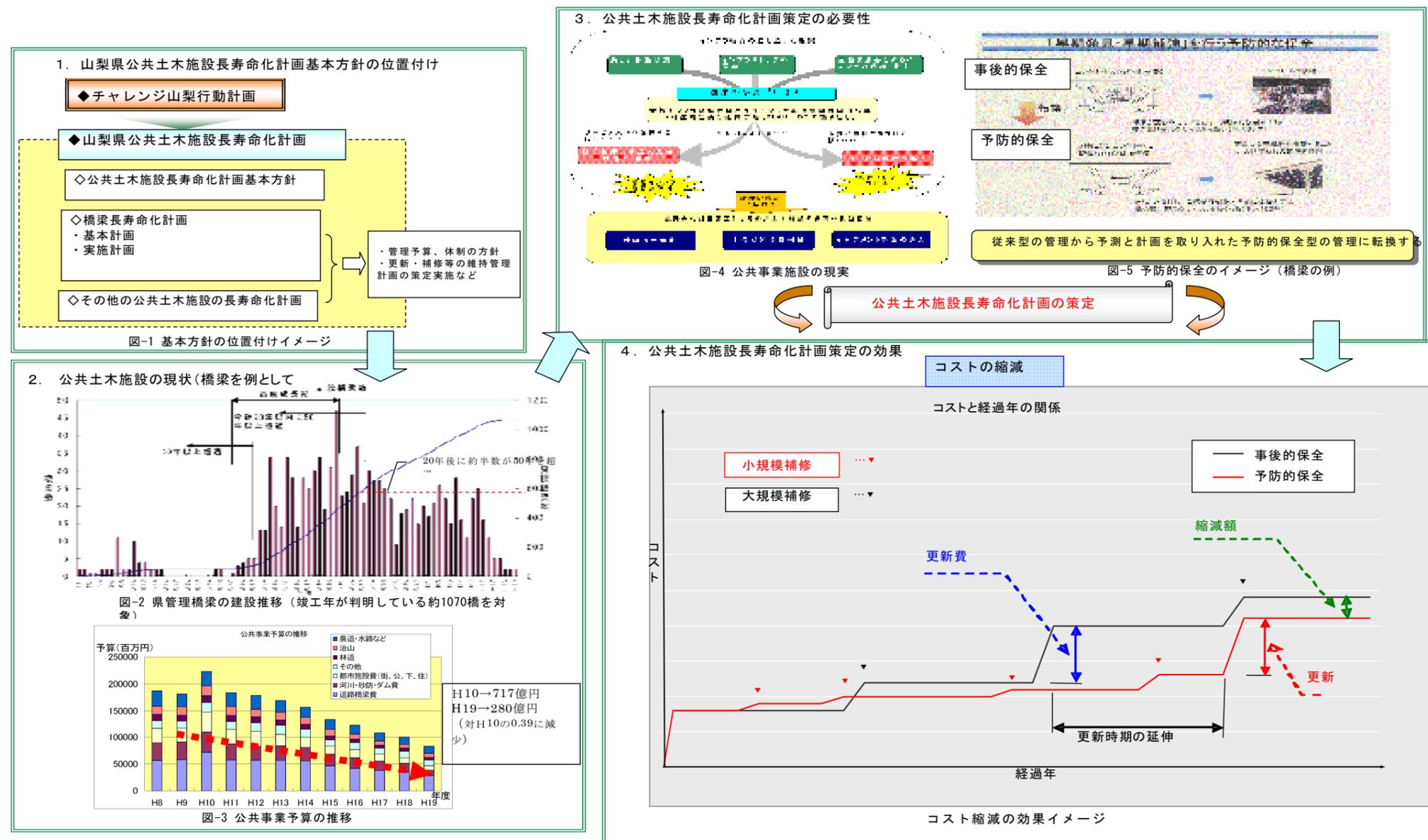


| 基本目標 | 項目 | 現状と課題 | 取り組みの方向 |
|----------|----------------------|---|---|
| つづら・やまなし | <p>① 新たな観光の振興</p> | <p>■ 県では本県観光の一層の活性化に向け、次のような目標を設定 ▶ 観光客数 (H18)4,404万人 → (H22)5,000万人 ▶ 宿泊客数 (H18)604万人 → (H22)700万人 ▶ 一人当たり観光消費額 (H18)8,945円 → (H22)10,000円 ■ 目標達成のためには、地域の主体的な魅力づくりなどと併せ、従来の観光の枠にとらわれない、柔軟かつ戦略的な取り組みが必要</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="222 441 756 955"> <p>本県の観光客数の推移</p> <p>※山梨県観光客動態調査</p> </div> <div data-bbox="786 441 1350 955"> <p>本県の宿泊客数の推移</p> <p>※山梨県観光客動態調査</p> </div> <div data-bbox="1380 441 2062 955"> <p>県内における観光消費総額等の推移</p> <p>※山梨県観光客動態調査</p> </div> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ◆インターネット活用による個人・小グループ旅行の誘客と物産販売機能の強化 ◆地域の観光地再生や着地型観光推進の取り組みへの支援 ◆企業研修等の誘致による新たな団体旅行の獲得 ◆農山村への都市住民や企業のニーズ等を踏まえた受け入れ体制の整備 <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇富士の国やまなし観光ネットの機能強化 ◇観光地域の再生のためのアドバイザー派遣及びソフト事業への助成(H20年度:昇仙峡、下部温泉郷 H21年度:湯村温泉郷、清里・ハケ岳南麓) ◇やまなし観光推進機構と連携した着地型旅行商品の造成・販売促進 ◇国内における企業研修、セミナー旅行等の誘致促進 ◇グリーンツーリズムの推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域コーディネーター、ゆうゆう案内人の育成 ▶ 体験型教育旅行の誘致促進 |
| | <p>② インバウンド観光の推進</p> | <p>■ 県では、H22年までに外国人観光客を100万人にする目標(H18年:69万人) ■ 訪日外国人旅行者は、H15年から順調に増加してきたが、H20年後半から世界的な景気低迷や新型インフルエンザのため減少 ▶ H20年の訪日旅行者は835万人(前年並) ※韓国238万人(-8.4%)、台湾139万人(+0.4%)、中国100万人(+6.2%) ※H21年1～11月までの訪日旅行者は617万人(前年同期比-21.4%) ▶ H20年の本県への外国人旅行者は、87万人(前年比-1.2%) ※中国、台湾、香港など中華圏からの宿泊者が7割超。次いでタイ、シンガポール、韓国が多い ■ 観光産業活性化のためには、アジア地域からの誘客拡大が必要</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="519 1270 1350 1806"> <p>訪日外国人旅行者及び山梨県来訪外国人旅行者数</p> <p>※上記グラフの訪日外国人旅行者数は日本政府観光局「JNTO」による。山梨県来訪外国人旅行者数は山梨県観光客動態調査による</p> </div> <div data-bbox="1380 1270 2062 1806"> <p>訪日外国人旅行者数(地域別2008年)</p> </div> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ◆海外有望市場における効果的なプロモーションの展開 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 富士山を前面に、果実、ワイン、宝飾等を一体的にPRし、ブランドイメージを確立 ◆観光産業の国際化等 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 在住外国人及び留学生の活用、ホスピタリティの向上等 <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇海外における観光プロモーション等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 香港での観光物産フェアの開催等 ▶ 中国で観光セールスを行う専門スタッフを委託(北京・上海) ◇キーパーソンの招へい <ul style="list-style-type: none"> ▶ 訪日旅行の手配に影響力を持つランドオペレーターへの招へい ◇外国人旅行者受入体制の充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ホスピタリティ向上研修会の開催支援 ▶ 在住外国人及び留学生等を活用した情報発信 ◇観光産業の国際化への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ▶ やまなしインバウンド観光教育プログラムの展開 ◇訪日教育旅行の受入促進 ◇2010年ビジット・ジャパン・イヤー冬キャンペーン |

| 基本目標 | 項目 | 現状と課題 | 取り組みの方向 |
|----------|------------|--|--|
| むすぶ・やまなし | ① 骨格道路網の整備 | <p>■ 本県が持続的に発展していくためには、地域経済活動の活性化や広域的な交流・連携を支える、高速道路や地域高規格道路等の骨格道路網の整備が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国の平成22年度予算案では、公共事業関係予算は対前年度比18%の削減となった ▶ 道路関係予算については、新しく創設された交付金の道路関係予算を含め16%程度の削減となる見込み ▶ 国直轄事業の改築系事業は17%減であり、中部横断自動車道新直轄区間や新山梨環状道路北部区間への予算配分額に影響が危惧される ▶ 西関東連絡道路は補助事業として継続されるが、道路関係予算削減の影響が危惧される ▶ 中部横断自動車道有料区間などの有料道路事業は前年度並みの予算が確保された ▶ 高速道路や県際道路については、行政区域等をまたがり整備主体が異なることから、関係自治体のもと連携した取り組みが必要 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 広域的な交流及び地域を支える幹線道路網の整備に必要な財源確保が確実に実施されるよう国等に要請 ◆ 中部横断自動車道を始めとする高速道路等の整備促進に向けた関係機関との連携強化 <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中部横断自動車道の整備 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ICアクセス道路等の関連公共施設の整備推進 ▶ 用地取得事務の受託により早期完成を促進（平成21年度末目標：用地取得率80%） ◇ 中央自動車道の渋滞対策 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京都等、関係都県市と連携した要望活動の実施 ◇ 新山梨環状道路（北部区間、東部区間）の整備 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境影響評価、都市計画決定手続きの実施 ◇ 西関東連絡道路 甲府山梨道路Ⅱ期の整備 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路詳細設計、用地調査・取得の実施 ◇ 東富士五湖道路と第二東名間の整備促進 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 期成同盟会や静岡県と連携した国や関係機関等への要望活動の強化 |



| 基本目標 | 項目 | 現状と課題 | 取り組みの方向 |
|----------|------------------|---|---|
| むすぶ・やまなし | ② 公共土木施設の長寿命化の推進 | <p>■ これまでに道路、河川、下水道等の社会資本(公共土木施設)を建設し、その管理を行ってきたが、多くは建設後30~40年前後を経過しており、今後、更なる老朽化の進展により、これらの施設の維持補修・更新費の増大が予測されている。</p> <p>■ 人口の減少や少子高齢化の進展、税収の減収などにより、今後、財政的に厳しさを増すものと予想される。</p> <p>■ これらの老朽化していく公共土木施設を、県民が安全・安心に使い続けていくために、限られた予算の中で、いかに維持管理していくかが、今後の重要な課題となっている。</p> | <p>◆ 限られた予算の中で施設を維持管理していくため、予防保全的な修繕を行い、ライフサイクルコストの縮減を図る。</p> <p>◆ 長寿命化型管理の必要性の高い施設としては、橋梁、流域下水道施設、排水機場、樋門・樋管などが挙げられる。これらの施設について、現在、長寿命化計画を策定しており、策定後はその計画に基づき、逐次修繕等の長寿命化対策を実施していく。</p> <p>【現在の主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 橋梁長寿命化基本計画の策定(策定H20.3) ◇ 橋梁長寿命化修繕計画の策定・整備(策定H22.3、整備H21.4~) ◇ 河川管理施設の長寿命化基本計画の策定・整備(策定H22.1) ◇ 河川管理施設の長寿命化計画の策定・整備(策定H22.2~、整備H23.4~) ◇ 下水道処理場の長寿命化計画の策定(策定H21.4~) |



| 基本目標 | 項目 | 現 状 と 課 題 | 取り組みの方向 |
|----------|-----------------|---|---|
| むすぶ・やまなし | ③ リニア中央新幹線の早期実現 | <p>■ 現状(リニア中央新幹線の経緯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 昭和48年11月 基本計画の決定 始点:東京都 終点:大阪市 ▶ 平成19年12月 JR東海が首都圏～中京圏を超電導リニアにより、建設費5兆1千億円を自己負担で建設する方針を発表 ▶ 平成20年10月 JR東海と鉄道・運輸機構が、地形・地質等に関する調査結果を国土交通大臣に報告 ▶ 平成20年12月 国土交通大臣がJR東海と鉄道・運輸機構に整備計画の決定に必要な追加4項目調査を指示 ▶ 平成21年 1月 地元調整始まる ▶ 平成21年6・7月 JR東海が東京都・名古屋市附近間のルートごとの工事費や輸送需要量等の調査結果を公表 ▶ 平成21年10月 JR東海が東京都・大阪市間のルートごとの工事費や輸送需要量等の調査結果を公表 ▶ 平成21年12月 JR東海と鉄道・運輸機構が、追加4項目に関する調査結果を国土交通大臣に報告 <p>■ リニア中央新幹線実現の今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> □ リニア中央新幹線の建設促進(整備計画の早期決定) <ul style="list-style-type: none"> ▶ 全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画路線から整備計画路線への早期格上げ ▶ 駅の設置場所や費用負担の調整 □ リニアを活用した県土づくり <ul style="list-style-type: none"> ▶ リニア開通の優位性を活かし「暮らしやすさ日本一」を実現するため、県全体にその恩恵が広がるような県土づくり | <ul style="list-style-type: none"> ◆ リニア中央新幹線の整備計画決定に向けた国等への要望活動 ◆ リニアを活用した県土づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 推進体制の強化 ▶ リニアを活用した県全体の活性化方策の検討 ▶ リニアを活用するための基盤整備の方向の検討 <p>【現在の主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 普及啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶ リニア見学センター ▶ リニアファンクラブ ▶ 県民の日やイベント等への展示 ◇ 国等への要望活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 県期成同盟会による活動 ▶ 沿線都府県が連携した活動 ◇ リニアを活用した県土づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶ リニア建設推進本部の設置(H21. 4) ▶ リニア活用推進懇話会の設置(H21. 5) ▶ リニア影響調査の実施(H21～) |

